

港のたより

Letter of Port

Vol. 147

2024.12.16

一般社団法人 寒地港湾空港技術研究センター

COLD REGIONS AIR & SEA PORTS ENGINEERING RESEARCH CENTER



紋別港(写真提供:北海道開発局)

Contents

行事報告

みなとの

ニュース

ザ・シンポジウムみなと in 紋別	2
シリーズ企画「北のみなとリレートーク」 第2回	3
令和6年度 稚内港 大規模地震・津波総合防災訓練	6
室蘭港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました～指定証交付式の開催～	8
江差港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました～指定証交付式の開催～	9
2024年度 寒地土木研究所一般公開開催報告	10
第44回 技術者交流フォーラム事業 in 函館「インフラと観光～函館港の事例～」	11
「海の日」海事関係功労者大臣表彰 北海道開発局関係では1名、1団体が受賞	13
港湾空港関係功労者表彰及び海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰	14
会員の表彰について	15

センター通信

令和6年度 寒地港湾空港技術研究センター講演会の開催について	16
令和6年度 第1回技術委員会の開催について	16

お知らせ

図書サービス(閲覧・貸出)のシステムをリニューアルしました	17
-------------------------------	----

編集後記

	18
--	----

行事報告

ザ・シンポジウムみなと in 紋別

「ザ・シンポジウムみなと」は、港湾の重要性や必要性を理解していただくとともに、広く港湾をPRすることを目的として開催しており、令和6年9月26日(木)に紋別市民会館において32回目のシンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムは「紋別港の将来を考える ～『みなと』を核とした交流人口の増加～」をテーマとして講演とパネルディスカッションを行い、紋別港の果たす役割や将来像について有識者が意見を出し合い、約150名の方が熱心に聴講されました。

はじめに、主催者を代表してザ・シンポジウムみなと実行委員会の魚住聡 委員長、開催地を代表して宮川良一 紋別市長から開会の挨拶がありました。

第1部の講演では、「紋別港から発信する地域交流増加について」と題して、武者加苗 札幌大学地域共創学群経済学系教授から、魅力あふれる海洋の資源やアラシ保護施設等といった人を引き付けるコンテンツ

発信の工夫と、ふるさと納税の活用や体験観光による交流人口増加の方策等についてご講演いただきました。

第2部のパネルディスカッションでは「紋別港を核とした研究と観光による交流人口増加の取り組みについて」をテーマに、ご講演の武者教授に加え、宮川良一 紋別市長、竹内珠巳 みなとオアシスもんべつ運営協議会代表、大塚夏彦 北海道オホーツク流水科学センター所長の4名が登壇し、フリーアナウンサーの渡辺陽子氏をコーディネーターとして討論が行われました。

竹内代表からは紋別港の他地域にはない観光資源について、大塚所長からは北極研究における流水南限としてみなとの変化把握意義と北極研究船の活用について、宮川市長からは観光施設の経済効果や宿泊施設不足の課題について、武者教授からはSNS活用による情報発信の必要性やクルーズ船利用の可能性等に対してそれぞれ発言され、理解が深まりました。

また、会場入り口ホールにおいて、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構による「みなとパネル展」も開催され、多くの方にご覧いただきました。

第1部 講演状況



第2部 パネルディスカッションの 状況



※シンポジウムの内容(挨拶、第1部の講演、第2部のパネルディスカッション)は、次回発行する「海と港」に掲載いたします。パネルディスカッションの動画(約90分)は、寒地港湾空港技術研究センターのホームページにてご覧いただけます。

**ザ・シンポジウム
みなと in 紋別**

**紋別港の将来を考える
～「みなと」を核とした交流人口の増加～**

令和6年9月26日(木) 15:00-17:30
会場：紋別市文化会館
紋別市幸町3丁目1番8号
アクセス: <https://mombotss.jp/education/?content=284>

講演
紋別港から発信する地域交流増加について
武者 加苗 氏
札幌大学地域共創学群経済学系教授

パネルディスカッション
紋別港を核とした研究と観光による交流人口増加の取組について
宮川 良一 氏
紋別市長
竹内 珠巳 氏
みなとオアシスもんべつ運営協議会代表
大塚 夏彦 氏
北海道オホーツク流水科学センター所長
渡辺 陽子 氏
フリーアナウンサー

「ザ・シンポジウムみなと」実行委員会事務局
事務局：紋別市文化会館3階303号室
TEL: 0157-142144
FAX: 0157-142145
Eメール: info@mombotss.jp
URL: <https://mombotss.jp/>

シンポジウム参加費は、主催者負担(参加費は無料)です。
会場は、紋別市文化会館3階303号室です。

みなとのニュース

シリーズ企画

『北のみなとリレートーク』



..... 第2回

—企画の主旨・目的

港湾等の業界において、我が国の生産年齢人口の減少と若年層の理系離れによる技術者確保、働き方改革やワーク・ライフ・バランス向上の取り組みは喫緊の課題となっています。その上で、将来を担う若手や女性技術者の存在はより重要性を増しており、彼ら・彼女らの活躍を紹介することは、技術者の確保、職場環境を改善する上で、業界にとっても参考になるものと思います。

このため、特に人数が少ない女性技術者を対象に、職場における活躍やワーク・ライフ・バランス等について焦点を当て、インタビュー形式で技術者を紹介します。

なお、インタビュアー(聞き手)は、当センター広報委員にご就任いただいている女性委員にお願いすることとしました。

—出席者

あらや
新谷ひかる 様

所属：(株)アルファ水工コンサル
タンツ技術部

プロフィール：北海道大学水産学部を卒業し、2019年4月に(株)アルファ水工コンサルタンツに入社。技術部に配属され、主に漁港計画の業務に従事されています。



山本也実 様

所属：北海道開発局釧路開発建設
部釧路港湾事務所第1工務
課第2工務係員

プロフィール：函館工業高校を卒業し、2016年4月に北海道開発局に入局。函館港湾事務所、苫小牧港湾事務所の勤務を経たのち、2020年から釧路港湾事務所に勤務し、現在は、第1工務課にて工事・業務の積算・監督を担当されています。



—インタビュアー

(CPC 広報委員会委員。五十音順)

神山 千佳さん：五洋建設(株)札幌支店

中島 康子さん：日本データサービス(株)



～就職先を選んだ志望理由は

新谷 高校の時に漠然と海は広くていいなと思い、大学進学時に海と人をつなぐ仕事がしたいと考え北海道大学水産学部を志望しました。

海や水産というキーワードで就職先を探している中、アルファ水工コンサルタンツを見つけ、食品業界以外にも、魚や海に関われる仕事があることを知り、土木業界に興味を持ちました。

山本 小学生の高学年の時から測量に興味を持っていました。中学生の時に函館工業高校の土木課で測量ができることを知り興味があったので、そこを目指して勉強をしました。その結果、念願の函館工業の土木課に入ることができたので、その知識を生かして土木の仕事をしたいと考えていました。就職は、民間も考えたのですが、就職担当の先生から「山本さんは公務員の方が向いているよ」と言われ、市役所や北海道開発局とかを受験しました。北海道開発局の説明会で港湾は世界につながっている説明を聞いてカッコいいなと思い、また大きな事業を手掛けていることを聞いて北海道開発局の港湾を志望して就職しました。

~就職してからのお仕事は

新谷 大学は水産学部だったため、就職して初めて建設土木の内容に触れました。今でも図面を理解するのに苦戦しています。それでも、漁業のことを調べたり、実際に漁港に行ったり、水環境の建設・土木コンサルタントである会社の仕事を今では面白いと感じています。

アルファ水工の技術部は、調査、計画、解析、設計、建築、維持管理という部署に大きく分かれており、私は、漁港計画の部署に1年目から配属されています。

山本 最初は、地元の函館港湾事務所に2年間、次に苫小牧港湾事務所も2年間勤務しました。現在は釧路港湾事務所に勤務しています。

釧路では、深浅測量や水質調査・底質調査の業務や、設計の仕事を3年間担当して、現在は工事や業務の積算などを担当しています。

~印象に残っている仕事は

新谷 入社してから5年間、北海道開発局の業務で、苫前漁港の新規計画検討を担当していました。計画立ち上げを検討し始めた最初の年から、最後の事業評価の年まで、様々な形で携わることができました。大規模な事業となりましたが、無事に今年度から計画着手となり、達成感とやりがいを感じるとともに、とても貴重な経験になりました。

実際に漁業の現場を見に行き、漁業者さんに話を聞いたこともあり、その内容が形となって新規計画を立てられたことがとても印象に残っています。また担当者にたくさん助けていただいたこともあり、事業評価で認められた際には、皆様の安心した表情を見られてとても嬉しく感じました。

苫前漁港の整備事業はこれからですが、計画に携わった施設のうち既に完成したものもあります。利用者の方から、施設ができて魚価が上がったとの声を直に聞いただけではなく、新聞に掲載されたことにも喜びを感じました。

山本 私は釧路に来るまでの函館・苫小牧ではずっと工事の監督をやっていました。港の仕事をやる上では、工事の施工を理解しないと調査する

にも設計するにもイメージができないのかなと思っています。工事を担当した施設が完成して利用される場面を迎えると、安心感と達成感により、仕事のやりがいを感じます。

また、調査・設計を担当した際には、設計の工夫したところや施工方法の特徴など全体を理解することができ、すごい達成感がありました。全体を理解できたおかげで、視察対応や小学生の見学会などで施設を案内するときには、ポイントを掴んでうまく説明できるようになりました。

~これからやってみたい仕事や目標

山本 以前釧路港湾事務所の計画・保全課にいましたが、その時に上司が事業評価や計画の仕事をしていることを見て、今後私も計画系の仕事に携わりたいと思っています。

また、今までに函館・苫小牧・釧路を経験したので、まだ行っていない道内の地域で仕事をしてみたいと思っています。

新谷 上司は、広い分野での知識や経験があり、多面的な視点を持って判断をされています。広い視点から、想像力を持って計画の仕事ができるようになることが目標です。

私は入社以来、計画部署に配属されていますが、計画を立てるにあたり、調査や解析の結果、また物ができるイメージや設計面のことも理解することが必要です。そのためには、他の部署の人にも積極的に相談に行き教えてもらっています。

多面的な視点が必要とされることは、計画分野の大変で苦労しているところでもあります、同時に面白いところでもあると感じています。

山本 私も分からないことがあると、調査設計に関してはコンサルの方や、工事に関しては建設会社の方に教えてもらい、そこで学んで成長させていただいていると思っています。現場にいるコンサルや建設会社の方々はとても優しく丁寧に教えていただけるので、とても感謝しています。



座談会の様子

～港への期待など

新谷 やっぱり漁師さん達が働きやすくなるような港の整備に期待しています。

漁港の話になりますが、北海道は特に厳しい冬もあり、漁業は過酷な作業環境と感じています。北海道開発局さんで整備している防風柵、屋根付き岸壁や船揚場などのように、働きやすい環境づくりが求められています。昨年、福島町のコンブ漁師さんにお話を聞きましたら、船揚場に屋根施設が整備されたことで、コンブの洗浄や乾燥作業などがしやすくなったと喜んでいたことを思い出します。

～職場のよいところ

新谷 計画分野以外のことで悩んだときに、同じ会社の各部署に詳しい先輩方がいて、いつでも聞けるところが良いところだと思います。

会社の飲み会やイベントで他の部署の方々ともお話する機会があることで繋がりができ、困った時に相談しやすい環境になっていると感じます。また、同じ世代の社員も多いので、休日にはフットサルやバトミントンなどを行っており、居心地が良い職場です。

山本 私の職場は先輩方が優しく気軽に相談できる環境です。怒られた記憶がないくらいで、なんでも教えてくれる方が多いです。

～職場の改善を望むところ

山本 近年は釧路でも気温や湿度も高くなる日が頻繁にありますので、執務室にクーラーが付くと作業効率も上がると思います。

～これからの土木業界に望むこと

山本 土木系の仕事はイメージ的に環境が悪いと思われがちですが、職場環境は改善されています。現場だけの仕事ではなく、執務室での仕事など

色々あるので働きやすい職場だと思います。その辺をもっとPRして、土木や北海道開発局の仕事に、興味を持ってもらう説明会などを開催すると良いと思います。

新谷 色々なことを経験することで、内業メインでも仕事ができることも必要ですし、会社も色々なワークスタイルを推進すれば働きやすい職場になると思います。

～長時間にわたり、いろいろなお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。とても有意義な座談会になりましたことに感謝申し上げます。

～インタビューからひとこと

神山委員： 今回も若き女性技術者二人からパワーを頂きました。お二人が、この業界に入った動機や現在携わっている業務を伺い、生き生きとして、将来の展望などたくましさを感じました。

もっともっとたくさんの方に知ってもらい女性技術者が増える事を望みます。

第3回リレートークもご期待下さい。

ありがとうございました。

中島委員： 第1回座談会同様、若い技術者さんの仕事への取り組み姿勢を伺うことができ、私自身にとっても大変有意義な座談会でした。昔若手であった方々も、ご自身の若いころを振り返っていただける記事になったと思います。

この業界の魅力を知っていただくために、多くの方に読んでいただければ幸いです。

本日はどうもありがとうございました。



前列左から山本さん、新谷さん 後列左から中島さん、神山さん

編集後記

2時間ほどの座談会でしたが、出席者とインタビューとの会話が途切れないほど、多様な話題でトークしてくださいました。紙幅の関係で全文を掲載できませんが、若手の仕事への向き合い方、企業や官庁の職員に対する取り組みも参考になりました。

座談会に出席いただいた新谷さん、山本さん、そして2名の広報委員にお礼申し上げます。

次回の「北のみなとりレートーク」もご期待ください。

令和6年度 稚内港 大規模地震・津波総合防災訓練

北海道開発局 稚内開発建設部

北海道開発局稚内開発建設部では、令和6年8月31日に稚内港の末広埠頭で大規模地震・津波総合防災訓練を開催しました。

本訓練は、大規模な地震・津波が発生した際に備えて、必要な措置を的確かつ迅速に実施できるよう、9月1日の「防災の日」(防災週間)の取り組みとして北海道開発局港湾空港部、稚内開発建設部及び稚内市との共催により、計20の機関から約100人が参加しました。



開会式

また、来賓として武部新衆議院議員、船橋利実参議院議員、鈴木宗男元国務大臣参議院議員代理千葉一幸稚内市議会議員ら約40人が出席されました。

本訓練に先立ち、稚内開発建設部長より開会宣言が行われ、続いて、稚内市工藤市長より「稚内港は、平成29年3月に稚内港湾事業継続計画を策定したところ。関係機関等の連携体制の確認、港湾機能の早期回復を目的とした本日の各種訓練を通じて、防災意識を一層高めて参りたい。」と開会の挨拶がされました。

次いで、来賓でお見えになった武部新衆議院議員から「本日の防災訓練のように、港湾管理者の稚内市、消防、警察、自衛隊、海上保安庁と、すべての皆様方がそろって訓練するということは大変重要なこと」、船橋利実参議院議員から「台風10号や能登半島地震のように、我々が想定できない災害が頻発をする時代に入ってきてい



林稚内開発建設部長 訓練開始宣言



工藤稚内市長 開催挨拶



武部新衆議院議員 来賓挨拶



船橋利実参議院議員 来賓挨拶



千葉一幸稚内市議会議員 来賓挨拶代読



①避難訓練



悪天候のため、ヘリコプターによる訓練は中止し画像により概要説明

②広域海上点検訓練



③油拡散訓練



④被災状況調査訓練
(ドローンによる状況把握も実施)

る。想定外の事態が起きた時にも迅速に対応できるための備えが確認できる訓練になることを期待申し上げる」とのご挨拶を頂きました。また、鈴木宗男元国務大臣参議院議員代理千葉一幸稚内市議会議員が「災害時の即応力を高めるため、関係各位の皆さんの対応能力向上を目指し、日頃からご尽力されていることに敬意を表するとともに、本日の訓練が地域住民の災害意識を高める一助になると確認している。」と挨拶文を代読されました。

本訓練では、北海道北西沖を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生し、稚内市では震度6強の強い揺れが発生。地震発生直後に大津波警報が発表され遡上高最大9mの津波が来襲、その後、津波注意報に切り替わり津波注意報も解除された状況を想定して、①避難訓練、②広域海上点検訓練、③油拡散訓練、④被災状況調査訓練、⑤港湾巡視訓練、⑥航路啓開訓練、⑦漂流者捜索・救助訓練、⑧緊急支援物資・被災者輸送訓練の8つの訓練を行いました(②広域海上点検訓練は悪天候により現地訓練から概要説明に代え訓練実施)。

緊張感漂う中、参加機関・団体の協力により滞りなく訓練が実施されました。また、「⑧緊急支援物資・被災者

輸送訓練」では、「命のみなとネットワーク」の形成に向けた取り組みとして、稚内海上保安部、陸上自衛隊、稚内開発建設部稚内港湾事務所との連携を確認しました。

閉会式では、北海道開発局港湾空港部の佐々木部長より「本日の訓練は、当地域における関係機関の連携、協力を必要とする対応について総合的に行ったもので、離島からの被災者の輸送や緊急支援物資の輸送訓練など孤立集落への対応や「みなと」を活用した海上支援である「命のみなとネットワーク」の形成に向けて、大変有意義なものであった。今後は、本で行った訓練を通じて、さらなる改善点を見いだしていくとともに、各機関におかれましては、さらなる災害対応力の向上に向けた取り組みを期待する」と講評を述べられ、無事訓練が閉幕しました。

今後も、より一層の安全・安心な港湾活動の実現に向けて関係機関との連携を強化するとともに、災害時に迅速な対応ができるよう防災意識の向上に努めてまいります。最後に、本訓練に参加頂いた関係機関の皆様には、準備段階から多大なご協力を賜りましたことに感謝を申し上げます。



⑤港湾巡視訓練



⑥航路啓開訓練



⑦漂流者捜索・救助訓練



⑦漂流者捜索・救助訓練



⑧緊急支援物資・被災者輸送訓練



⑧緊急支援物資・被災者輸送訓練



佐々木港湾空港部長 講評

室蘭港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました ～指定証交付式の開催～

室蘭市港湾部港湾管理課

令和6年8月7日、室蘭港が「釣り文化振興モデル港」(※)に指定され、9月8日に指定証の交付式を開催しました。

交付式は、むろらん港鉄人舟漕ぎ大会に併せて、多くの人で賑わう中で行われ、稲田雅裕国土交通省港湾局長の代理として、佐々木純国土交通省北海道開発局港湾空港部長から青山剛室蘭市長へ指定証が交付されました。青山市長は、「モデル港の指定を受け、今後、皆さんに安全に楽しんでもらえるよう釣り場開放に向けて協議を進める。室蘭港の魅力を全国に発信し、交流人口の増加につなげたい。」と述べました。

本港では、祝津絵鞆地区に集積する水族館や道の駅、温泉施設等の観光資源の魅力を生かした「まちのにぎわいづくり」の取組を推進しており、その1つとして、絵鞆臨海公園内の内防波堤及びボードウォークを釣り場の候補地として開放を検討しています。

令和6年6月に釣り場開放場所(候補地)で行われた実釣試験では、アブラコ、サクラマス、ヒラメ等全51匹の釣果がありました。

今後は、令和8年度以降の釣り場開放を目指し、安全対策や運営体制の検討整備、プレ開放を行う等取組

を進めて参ります。



釣り文化振興モデル港指定証交付式

※国土交通省港湾局は、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾を「モデル港」として募集し、「釣り文化振興モデル港」として指定しています。



江差港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました ～指定証交付式の開催～

江差町まちづくり推進課

令和6年8月7日、江差港が「釣り文化振興モデル港」(※)に指定され、10月30日に指定証の交付式を江差町役場にて開催しました。

交付式では、稲田雅裕国土交通省港湾局長の代理として、佐々木純国土交通省北海道開発局港湾空港部長から照井誉之介江差町長へ指定証が交付されました。照井町長は、「モデル港の指定を受け、釣りによる事故やトラブルの防止、そして交流人口の増加による地域の活性化につながることを期待したい。」と述べました。

本港では、かもめ島の自然を活かしたキャンプ・グランピングや「海釣り」や「磯遊び」等の海洋レクリエーションを推進しております。海のルールとマナーの周知や安全・安心の釣り場環境の整備が求められており、西防波堤を釣り場の候補地として検討を行っています。

令和6年6月には実釣試験を実施し、クロソイやマガレイ等全19匹の釣果がありました。

「釣り文化」の拡大とともに地域の活性化に繋げ、「海とまちをつなぐまちづくり」を実現させるため、設立を予定している「(仮称)江差港みなとまちづくり協議会」において、安全対策・マナー向上などの管理面の検討

を進めるとともに、釣り教室等を開催し、開放に向けて取組みを進めて参ります。



釣り文化振興モデル港指定証交付式

※国土交通省港湾局は、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾を「モデル港」として募集し、「釣り文化振興モデル港」として指定しています。



釣り場解放地区(候補地)

2024 年度 寒地土木研究所一般公開開催報告

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム 水産土木チーム

寒地土木研究所では、研究所の役割や研究成果を分かりやすく紹介するため、「国土交通 Day」の一環として施設の一般公開を実施しています。例年、試験研究機関や企業、国や自治体などの行政関係者はもとより、日頃、土木技術の研究に接する機会の少ない一般の方々や、家族連れの方々も多数ご来場されており、研究の一端をご覧いただいています。

2024 年度寒地土木研究所の一般公開については 7 月 19 日(金)・20 日(土)の 2 日間で開催しました。本年度は「北の知恵を生み出す寒地土木！」をテーマに、15 の研究チームが「学べる」「体験できる」を通じ、研究活動や施設を紹介しました。また、例年大人気のドローン操作体験コーナーも用意しました。昨年から、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ変更されたことから、入場制限を設けない開催となり、多くのお客様が来場されました。

寒冷沿岸域チームでは「みて・ふれて学ぼう！波の不思議」をテーマに、大型平面水槽の造波装置で発生させた波を模型の防波堤に作用させる実験のデモンス

トレーションを行うとともに、数値シミュレーション動画の紹介、造波水槽による模擬的な津波の観察や流水にさわれる体験コーナーも設けました。

水産土木チームでは「海の中の土木を知ろう！」～と題して、説明用パネルによる研究の紹介や、漁港のミニチュア模型の展示、ROV による魚礁等を撮影した映像の上映、魚礁群の粒子法による数値シミュレーションの動画等により、海の構造物に対する理解を深めて頂いたほか、北海道沿岸域に生息する稚ナマコ・エゾメバルの見学用水槽を設け、海の生き物の観察をして貰いました。

今年も多くの皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。来年もさらに充実した内容でお迎えできるよう、スタッフ一同準備を進めてまいります。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

また、技術相談についても随時受け付けております。どうぞ、お気軽にご相談下さい。

(文責：水産土木チーム 菅原)



地元小学生への説明状況



ドローン体験の状況



大型平面水層での説明状況



流氷ジオラマ作りの整理券はすぐに売り切れに

第44回 技術者交流フォーラム事業 in 函館 「インフラと観光～函館港の事例～」

函館開発建設部函館港湾事務所 三岡照之

(1)はじめに

第44回技術者交流フォーラム事業in 函館は、クルーズ船の寄港数増加によりインバウンドの誘客や消費拡大が期待される函館港クルーズ岸壁整備にかかる技術的工夫などについて、産学官がその技術開発に関する情報交換を行い、交流を図ることを目的に、北海道開発局、寒地土木研究所などの主催で、令和6年7月30日に開催されました。（詳細はこちら→[寒地土木研究所 イベント情報](#)）

今回は紙面をお借りし、そこで私が発表した概要を報告させていただきます。

(2)発表概要

1. 函館港の現状

函館港は全国に900近くある港湾の内、重要港湾に位置づけられる港で、現在はフェリー、セメント関連を中心に3,000万tの貨物を扱い、全国で25番目、内貿に限れば10番目の港となっています。

2. 函館港の歴史

函館港の歴史は古く、鎌倉時代の頃から天然の良港として昆布などの積み出し港として活用されていま

した。江戸末期に、北前船で有名な高田屋嘉平衛が函館を拠点にしたことにより発展し、さらに日米和親条約を契機にペリーが来函し、日本の玄関口として一気に発展し、国内でも一二を争う国際貿易港となりました。「港湾工学の父」と呼ばれる廣井勇博士も小樽港より早く函館港に関わり、函館港の近代化に寄与しています。そして北洋漁業、造船業の基地として、その後の函館港・函館圏域の発展にはめざましいものがありました。

港は、人、モノが集まり、産業が生まれ、産業があれば経済が動き地域が活性化するということを体現したのが、この函館港でした。

3. クルーズ船ターミナルの整備

港はここまで見てきたように、時代によって求められる機能が変わってきます。昨今は観光需要の増加とともに、クルーズ需要が高まりクルーズ船ターミナルの整備が函館港にも必要になりました。

函館港では、2017年度にクルーズ船ターミナル整備に着工し、わずか2年で暫定供用に漕ぎ着けましたが、整備にあたっては、各種最新技術を活用しているので、そのいくつかを紹介します。

①プレキャスト部材の活用

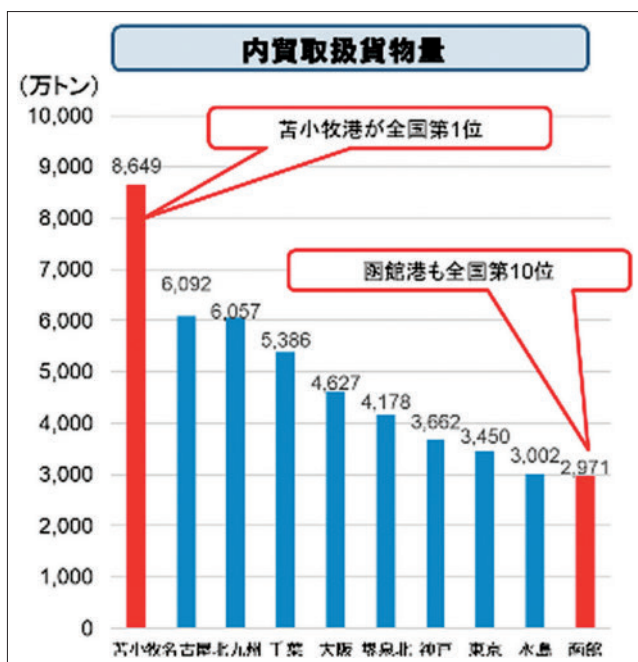
これまで一般的にプレキャスト部材は、現場施工より高価になることから採用されない事が多かったですが、工期短縮、安全性向上など様々な価値も一体的に考慮するVFM(Value for Money)検討により、プレキャスト部材を多用した事が短期間での供用の大きな要因となっています。

②BIM／CIMの活用

昨今ではBIM／CIMの活用は普通になってきましたが、当時としては最先端のBIM／CIMを活用し、近接する青函連絡船「摩周丸」の構造との干渉を確認したり、関係者との情報共有に活用したりと、事前検討を効率的に進めました。

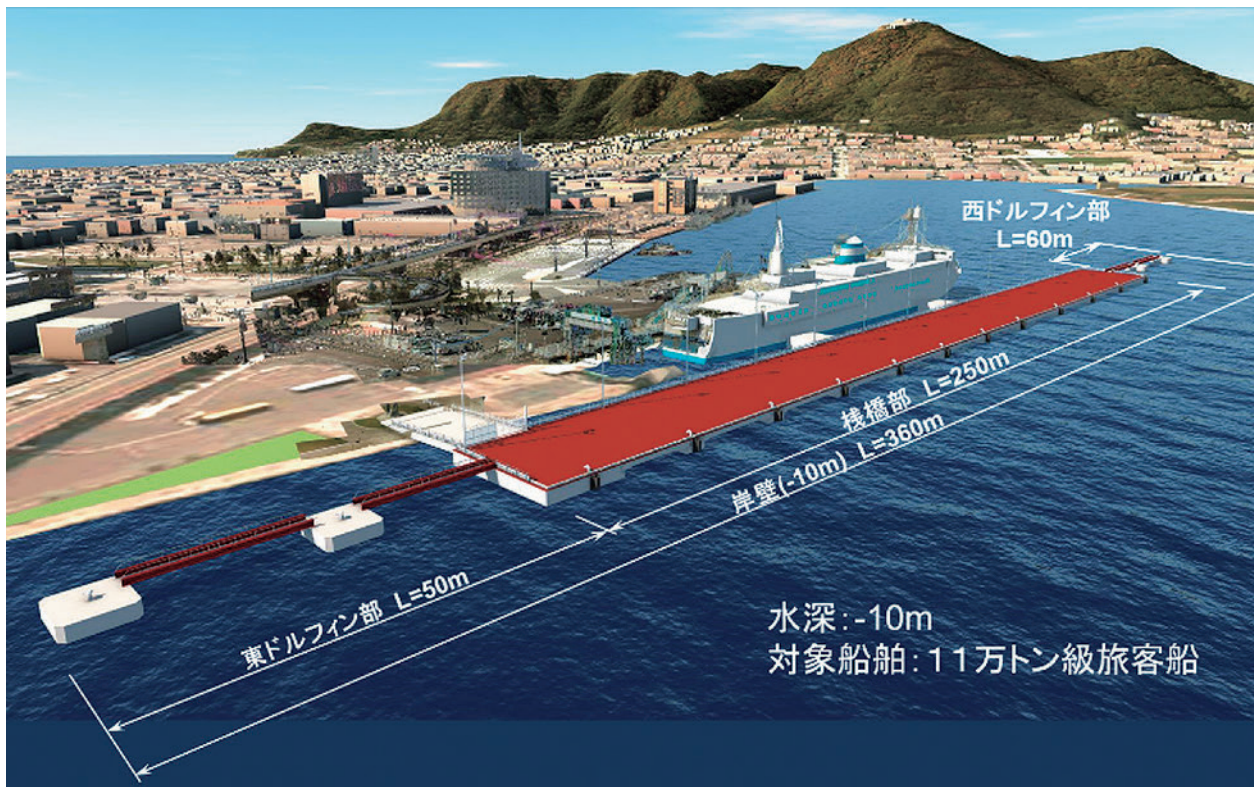
③ICT技術の活用

施工においても、鋼管杭の打設位置の確認などをモニター上で見える化を図ったり、近接する「摩周丸」との衝突防止を知らせるレーザーセンサーを活用するなど、各種ICT技術を活用して作業の効率化を図っています。



内貿取扱貨物量の港別順位(令和2年)

※全国のベスト10港湾
出典：港湾統計(年報)(国土交通省)



BIM / CIM を活用した完成図

④浚渫土の有効活用

また、クルーズ船泊地の浚渫土砂を防波堤の背後盛土に活用し、防波堤の強靱化を図るだけでなく、浅場等の形成により藻場を造成させ、昨今話題のブルーカーボンにも寄与する環境に配慮した施工を行った事もこのプロジェクトの特徴となっています。

このプロジェクトにより、今年度、過去最高の59隻のクルーズ船入港を実現する事に加え、函館のビュースポットとして有名な八幡坂からの眺望もより港町らしいものとなり、インバウンドを含む、函館観光の振興にも寄与しています。

4. 函館港のこれから

函館では観光以外にも造船業、セメント業に加え水産研究など各種産業も盛んになってきており、これら



函館八幡坂からの景観(ダイヤモンドプリンセス)

はいずれも港湾機能を活用したものとなっています。このことから「函館港」の元気は、「函館」の元気に繋がっているといっても過言で無いと思います。しかし前述のとおり、時代によりどんどん港への要請も変わっていくので、次の課題に対応した展開も視野に入れないなりません。例えば…

- カーボンニュートラルへの対応(洋上風力発電、水素社会への対応…)
- トラック輸送問題(ドライバー不足、2024年問題…)
- 新幹線の札幌延伸(青函トンネルの貨物容量、並行在来線…)

次の「函館港」を考えるため、皆さんの意見を是非聞きたいので、一緒に次の「函館」を考えていきましょうと訴えて、講演は終了しました。

(3)さいごに

前述のとおり、「港」の元気は、「地域」の元気に繋がっていますが、港湾の整備にはお金も時間もかかるので、早め早めに課題への対応策を皆で考えていかないとなりません。函館で例に挙げた課題は、函館だけでなく北海道でも抱えている課題だと思いますので、全道の皆さんの意見も聞きながら、一緒に考えていきたいと思いますので、引き続きご協力よろしくお願い致します。

「海の日」 海事関係功労者大臣表彰 北海道開発局関係では 1 名、1 団体が受賞

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

国土交通省では、毎年「海の日」に、多年にわたり海事関係事業等に貢献された方々に対して大臣表彰を行っています。

今年の受賞者は 99 名・28 団体で、このうち北海道開発局関係では、多年にわたり「港湾建設事業の振興」に貢献された白崎義章氏(釧路市・白崎建設(株)代表取締役社長)、多年にわたり稚内港北防波堤ドームでの環境美化活動に取り組み「港内等の環境美化」に貢献された「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」(稚内市)の 1 名・1 団体が受賞されました。

白崎氏は、7 月 18 日(木)に国土交通省で行われた表彰式へ出席、稚内のみなとを考える女性ネットワー

クは都合により欠席となったため、8 月 1 日(木)稚内開発建設部において伝達式が行われました。

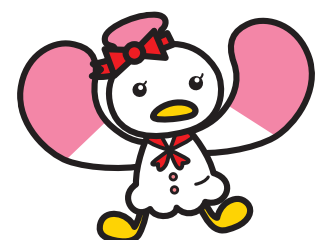
受賞された白崎氏からは「この度の受賞は大変光栄なことであり、ご尽力いただいた関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。今後も港湾空港建設業の健全な発展と港湾整備の拡充に力を尽くして参ります。」、稚内のみなとを考える女性ネットワークの会長である岩本氏からは「発足から活動が続けてこられたのは、関係機関のご協力のおかげです。受賞はとても栄誉なことであり、我々のエネルギーにもなります。」との受賞にあたってのお言葉をいただきました。



受賞された「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」の皆様
前列左から石塚智子様、栃木潤子様、林稚内開建部長、岩本会長、川口ひろみ様、後列左から本山次長、川口彩華様、神正子様、栃木綾子様、佐々木千鶴子様、松本次長



受賞された白崎義章氏



港湾空港関係功労者表彰及び海をきれいにするための 一般協力者の奉仕活動表彰 ～長年にわたる活動ありがとうございます～

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

北海道開発局では、様々な団体と連携した港湾空港整備事業の効果的な推進を目的として、「北海道開発局港湾空港関係功労者表彰」及び「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」を実施しています。

今年度の「港湾空港関係功労者表彰」は、前千歳市長の山口幸太郎氏、前函館市長の工藤壽樹氏、前浜中町長の松本博氏、石塚建設興業(株)の石塚英資氏、(株)山田組の山田健一郎氏及び(株)鈴木工業の鈴木毅氏に、また「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」は、(株)稚内衛生公社に決定し、7月22

日(月)に表彰式が執り行われました。

表彰式では、北海道開発局佐々木港湾空港部長から感謝状、表彰状がそれぞれ授与され、その功績を讃えるとともに、改めて感謝の意を表する挨拶がありました。

各受賞者の皆様からは、港湾空港にまつわる思い出、企業活動や清掃活動を進める上で心がけていることなどを交えながら、関係者の方々に対する謝辞等が述べられました。



受賞された方々(前列左から、稚内衛生公社様、山田健一郎様、山口幸太郎様、佐々木港湾空港部長、石塚英資様、鈴木毅様)

会員の表彰について

当センター団体会員が令和6年度北海道開発局優良工事等表彰及びi-con 奨励賞 2024 の港湾等部門において表彰されました。

令和6年度 北海道開発局優良工事等表彰(港湾等部門)

【工事】

表彰区分	推薦部局	工事名	受注業者名	技術者名
局長	函館	瀬棚港外2港東外防波堤その他建設工事	(株)工藤組	齊藤 剛
	釧路	釧路港土砂処分場護岸C部工事	(株)濱谷建設	清水 大輔
部長	小樽	古平漁港 東防波堤改良工事	(株)吉本組	及川 俊博
	室蘭	苫小牧港西港区汐見地区波除堤建設その他工事	(株)山口工業所	伊藤 則俊
	釧路	歯舞漁港西側道路改良その他工事	白崎建設(株)	安藤 剛士
	稚内	抜海漁港外1港泊地浚渫その他工事	(株)中田組	船木 修吾

【業務】

表彰区分	推薦部局	業務名	受注業者名	技術者名
局長	函館	砂原漁港施設整備検討その他業務	日本データーサービス(株)	羽原 大生
	室蘭	登別漁港-2.5m物揚場構造設計その他業務	北日本港湾コンサルタント(株)	高橋 功
	釧路	釧路港西港区港内擾乱対策検討業務	(株)クマシロシステム設計	阿部島直哉
部長	函館	函館港湾事務所管内漁港工事実施資料作成業務	(株)リージャスト	小甲 貴志
	小樽	寿都漁港外3港 監督等補助業務	北日本港湾コンサルタント(株)	近藤 直博
	室蘭	苫小牧港基本設計その他業務	北日本港湾コンサルタント(株)	—
	釧路	根室港整備検討その他業務	北日本港湾コンサルタント(株)	清野 克徳
	網走	紋別港施設整備検討業務	(株)クマシロシステム設計	佐藤 規之
		サロマ湖漁港深浅測量業務	パブリックコンサルタント(株)	北川 紀洋
	留萌	苫前漁港 施設計画検討その他業務	(株)アルファ水工コンサルタンツ	鎌田 昌弘
	稚内	鴛泊港施設整備検討業務	日本データーサービス(株)	—

北海道開発局 i-con 奨励賞 2024(港湾等部門)

区分	推薦部局	工事・業務名	受注業者名
工事	小樽	石狩湾新港 岸壁(-12m)建設工事	岩倉建設(株)
	室蘭	登別漁港泊地浚渫その他工事	堀松建設工業(株)
	釧路	落石漁港用地改良その他工事	渡辺建設工業(株)
業務	函館	福島漁港基本設計その他業務	北日本港湾コンサルタント(株)
	釧路	釧路港外2港深浅測量業務	日本データーサービス(株)
	稚内	稚内港北防波堤ドーム現況調査その他業務	(株)アルファ水工コンサルタンツ



少し古いお話となっ
てしまいますが、令和 6
年 10 月 16 日に公益社
団法人日本技術士会北
海道本部北方海域技術
研究委員会の主催、北
海道開発局小樽開発建
設部および小樽市の後
援で、小樽港第 3 埠頭

現地見学会および講演会が開催され出席させていただきました。

現地見学会の集合場所である令和 6 年 3 月にオープンした小樽国際インフォメーションセンターに近づくにつれ、大型客船がどんどん大きく巨大に迫ってきます。その姿は圧巻でした。令和 6 年における小樽港へのクルーズ船寄港予定は 32 隻ですから、毎度毎度みられるわけではなく、ナイスなタイミングだったのでしょう。停泊しているクルーズ船は、オランダ船籍の「ノールダム」で初寄港のようです。総トン数 82,897 トン、全長 285.24m、乗客定員 1,924 名および乗組員 811 名との

ことで、迫力満点のクルーズ船です。プレジャーボートや漁船はともかくとして、巡視艇やフェリーでさえも比較にならない大きさにただただ驚くばかりです。もっと大きなクルーズ船もあるようで、いろいろと興味が湧きあがります。こんな大きな物体が海上を動くのか？ 燃費はいかほどか？ もちろんクルーズ船をみたことがないわけではありませんが、小樽市産業港湾部港湾室のご配慮で至近間近での見学会となるようお計らいいただき感動も 10 割増です。仮に私が小さい頃、この光景を目にしたならば、「将来の夢はクルーズ船の船長」となったこと間違いなしです。

クルーズ船が停泊していた小樽港第 3 号埠頭は周辺の再開発も進みます。大泉洋さんが出演した「探偵は BAR にいる」においては、「小樽港観光船のりば」がロケ地となっていました。ここも令和 7 年度を目途として観光船ターミナルを中心とした新しい複合施設が完成予定のようです。

これからも目が離せない小樽港周辺のご紹介でした。いつかは、クルーズ船に。

(T.A)

表紙の写真：①紋別港全景 ②屋根付き物揚場－4m ホタテ陸揚 ③第 3 埠頭岸壁－12m(240m)PKS 陸揚 ④冬のガリンコ号運航

紋別港は、宗谷岬から知床岬まで弓状に連なるオホーツク海沿岸のほぼ中央部に位置し、漁業基地として古くから利用されており、近年は、紋別市および遠軽町を中心とする遠紋地区や上川北部の物流拠点港として、また、沖合・沿岸漁業の基地として重要な役割を果たしている。

紋別港の整備は大正 12 年に着手し、昭和 50 年の重要港湾への指定を契機に商港としての整備が進められ、平成 14 年には新

港町地区多目的国際ターミナルの拠点施設となる岸壁(－12メートル)が供用され、大型国際貨物船への対応が可能となり、石炭の輸入港として物流効率化に貢献している。

また、オホーツク海特有の流水を活かし、親水防波堤(クリオネプロムナード)を拠点とした氷海展望塔(オホーツクタワー)や人工海浜レクリエーション緑地(ホワイトビーチ)などを整備し、流水観光拠点や市民の憩い場としても利用され、平成 26 年にみなとオアシスへ登録、平成 30 年 8 月には Sea 級グルメ全国大会が開催されるなど、みなとを通じた地域の活性化に取り組んでいる。

更に、第 3 埠頭において 5 万キロワットの発電能力を有する木質バイオマス発電所が平成 28 年 12 月 1 日より本格稼働を開始し、港湾物流や交流空間などの港の機能に加え、エネルギー供給基地として利用されるなど、港湾の利用が促進されている。

現在は、港町地区小型船だまりにおいて、平成 29 年 5 月に北海道の 6 港湾管理者が連携して策定した農水産物輸出促進計画が全国で初めて認定され、連携水揚げ港湾として、地元水産物であるホタテの輸出拡大に向けた屋根施設整備等を進めている。



港のたより 【Vol.147】 2024 年 12 月 16 日

一般社団法人 寒地港湾空港技術研究センター

〒001-0011 札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2 番 17 号 セントラル札幌北ビル 5 階
TEL(011)747-1688 FAX(011)747-0146 <https://www.kanchi.or.jp>

